報告事項９

経済振興委員会報告資料

福岡城天守台調査の経過報告について

令和７年 12 月
経済観光文化局

福岡城天守台調査の経過報告について

今年度実施している福岡城天守台調査について進捗を報告するもの。

1 調査経過

(1)測量調査

発掘調査に先立ち、調査に必要な基礎図作成のため、本丸から天守台にかけて測量を実施。

4月30日より現地調査開始、6月末調査終了。

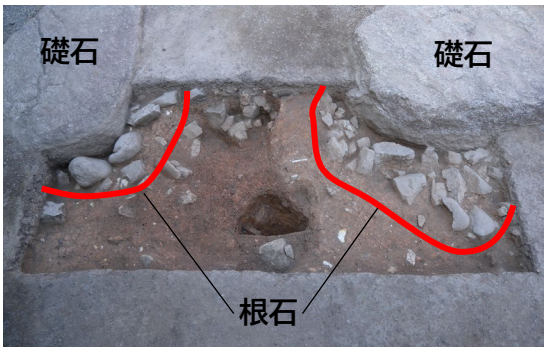
(2)発掘調査

6月30日より天守台内側(穴蔵(あなぐら)部分)において、部分的に礎石周辺の調査を実施。

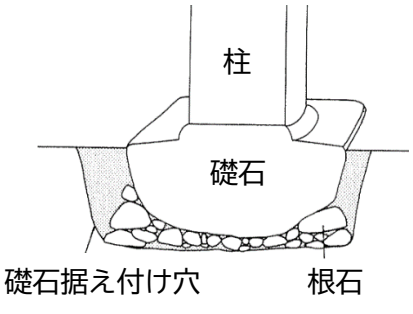
【調査状況①】礎石（そせき）が江戸時代の姿を保っていることが判明した。

・天守台の地表に見えていた礎石の下から、江戸時代の工法で築かれた根石(ねいし)が見つかった。
このことにより、礎石は江戸時代の姿のまま残されていたことが明らかになった。

・建物を建てることを前提として、礎石と根石でしっかりと基礎固めをしている構造である。



調査により確認した礎石と根石



<イメージ>

〈 礎石と根石 〉

礎石（そせき）とは、建物の柱を支えるために地面に据えられた基礎の石のこと。建物の荷重によって柱が地面にめり込まないようにしたり、柱が土に直接触れることを防いで腐食を防止するなどの役割がある。

根石（ねいし）とは、礎石の下に詰められた小型の石のこと。礎石を安定させ、沈下を防止する役割がある。

【調査状況②】江戸時代の建物に使用される部材が出土した。

○瓦

屋根の軒先に葺く瓦の一部が出土した。

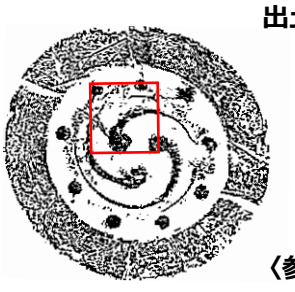
福岡城の瓦によく見られる「巴文（ともえもん）」の模様がある。

○釘（和釘（わくぎ））

釘とみられる鉄製品が２点出土した。

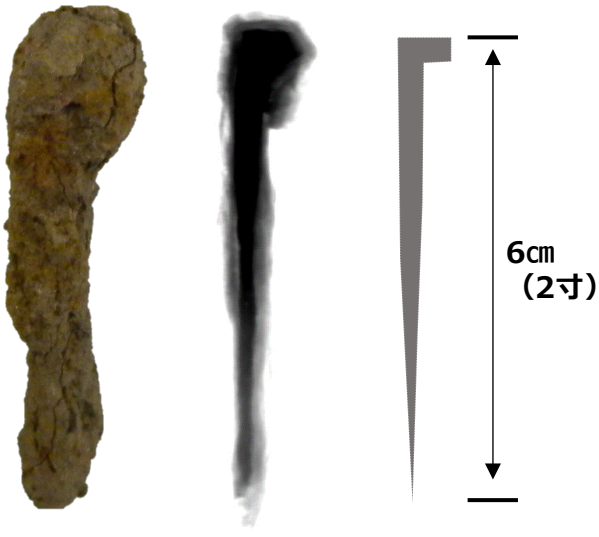
そのうち、１点をＸ線で撮影したところ、長さ約6cm（2寸）の和釘であることが判明した。

出土品



〈参考例〉

瓦（軒丸瓦）
巴形の渦巻きを模した「巴文」と
呼ばれる文様



〈実物〉　〈X線写真〉　〈推定図〉

釘（和釘）

〈 和釘と洋釘 〉

和釘は江戸時代以前に使われていた釘。鍛冶職人が1本ずつ手打ちで製作し、断面の形は四角形で、釘の頭は叩いて曲げたり巻いたりして作ったもの。

明治以降に一般的になった洋釘は、鋼線を機械で切断して、片側を押しつぶして釘頭を作り、もう片側をとがらせて製作したもの。断面は円形で、工場で大量生産されており、形や長さを均一に作ることができる。

和釘は現代でも文化財の修復工事や寺院の建築等で使用されている。

（３）石垣調査

天守台内側(穴蔵部分)の石垣の現状と内部構造を明らかにするため、石垣内部のレーダー探査を実施中。

（４）地盤調査

礎石の下の地盤の状況（固さ・地質など）を確認するため、天守台内部（穴蔵部分）のボーリング調査や圧密度調査を実施中。

2 今後の予定

○現在実施している発掘調査は12月まで実施、終了後は史跡保護のため埋め戻し。
○石垣調査、地盤調査については、令和８年２月まで現地にて継続して行う予定。
○今回の調査で出土した遺物等については、今後、分析・検討・整理を進めていく。
○調査で得られた結果を文化庁や有識者に共有し、助言や知見をいただく。